

弾道ミサイルを迎撃ミサイルで撃ち落とす地上配備型ミサイル防衛システムの一つ、「イージス・アショア」の配備断念を受け、菅義偉政権が代替案の検討を進めています。菅首相は国会での所信表明演説で、他国のミサイル発射拠点などを直接たたく「敵基地攻撃」能力の保有を促した安倍晋三前首相の談話を踏まえ、「イージス・アショアの代替案、抑止力の強化」について「あるべき方策を取りまとめていく」と述べています。敵基地攻撃能力保有に向けた動きは、際限のない軍拡と東アジア地域のさらなる軍事緊張をもたらす危険な企てです。

巨額な地上イージス代替
安倍前政権が今年6月に導入断

主張

「敵基地攻撃」検討

念を決定したイージス・アショアの代替案をめぐり、自民党国防議員連盟は10月30日、「新たなミサイル防衛に関する提言」を岸信夫防衛相に手渡しました。岸防衛相は「提言を踏まえて検討を進める」と答えました。

菅首相は、イージス・アショア

シス・アショア導入を決めた口実
は、イージス艦では乗組員が長期
の洋上勤務を繰り返す強いられる
という問題を解消し、24時間3
65日態勢でミサイル防衛任務に
従事できるということでした。新
型イージス艦という代替案につい
ては、慢性的な人員不足にある海

シス・アショアを上回るという専
門家の指摘もめりります。
提言で重大なのは、「相手領域
内でも弾道ミサイル等を阻止する
能力」敵基地攻撃能力の保有に
ついて、具体的な装備を示しつ
つ、早急に結論を出すよう強く求
めていることです。

際限ない危険な軍拡許されぬ

の代替案として「同システム」の
構成品を移動式の洋上プラットフォーム
に搭載する方向で検討して
いる（同28日、衆院本会議）と述
べています。自民党国防議員連の提
言は、新型のイージス艦を建造す
るよう主張しています。

上自衛隊の負担をさらに増大させ
るもので、政府の当初の口実から
しても本末転倒だという批判がす
でに上がっています。

人機用スタンドオフミサイルの導
入加速を挙げ、F35ステルス戦
闘機に搭載する巡航ミサイル（J
SM）などの調達を急ぐよう求め
ています。「島しょ防衛」などの
口実で導入を進めている巡航ミサ
イルが敵基地攻撃に転用可能であ
ることを告白するものです。

敵基地攻撃能力の保有は、「抑
止力の強化」ところか、東アジア
地域の軍拡競争を激化させるのは
明らかです。そうした検討は直ち
にやめるべきです。

トマホーク導入の主張も

しかも、「既存の海自艦艇、潜
水艦から発射可能な巡航ミサイル
（現在開発中の新型を含む）」の
活用も挙げられています。自民党国防
議員連の勉強会では、海自トップだ
った前海上幕僚長から「米海軍
のトマホークの導入が有効」
で、海自基地のある広島県呉市か
ら中国・北京を射程範囲にするこ
とができるという指摘まで上がっ
たといえます（佐藤正久自民党国
防議員事務局長・参院議員プロ
グ）。